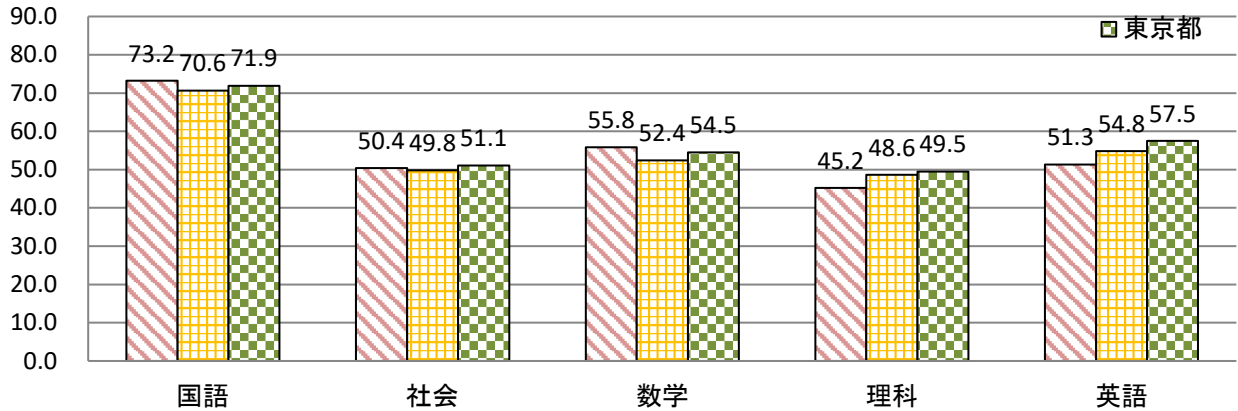


令和元年度 都学力調査結果(2年)

令和元年7月4日実施

本校
 江戸川区
 東京都



国語	区分	教科の内容(評価の観点別)				国語全体	分析・考察及びそれをふまえた指導の重点
		話す・聞く	書く	知識・理解・技能	読む		
	本校	73.5	58.7	69.5	83.1	73.2	国語全体の平均は都を上回ったが、「話す・聞く」「書く」が今一步であった。自分の考えを表現することに苦手意識をもっている生徒も多い。今後は、スピーチや聞き取りテストなどを通して「話す・聞く力」を、様々な文書の書き方をきちんと理解させた上で書かせたり、文章のまとめや自分の考えを繰り返し書かせることで「書く力」を養い、定着させていきたい。
	江戸川区	73.9	57.7	79.3	66.4	70.6	
	東京都	74.8	59.0	68.9	78.9	71.9	

社会	区分	教科の内容(評価の観点別)			社会全体	分析・考察及びそれをふまえた指導の重点
		思考・判断・表現	技能	知識・理解		
	本校	50.4	59.3	38.8	50.4	「思考・判断」は都の平均を上回り「考えさせる授業」の成果と思われる。一方、地理で米国の2大山脈が答えられなかったり、歴史で中世～近代史は概ねできていたが習ってからの時間が経っている古代史の正答率が低いなど、既習の知識・理解の定着が課題である。今後も主体的・対話的な授業を進めるとともに、復習小テスト等を取り入れ学習内容の定着を図っていく。
	江戸川区	46.9	60.8	40.2	49.8	
	東京都	48.5	61.5	40.9	51.1	

数学	区分	教科の内容(評価の観点別)			数学全体	分析・考察及びそれをふまえた指導の重点
		見方・考え方	技能	知識・理解		
	本校	32.6	62.5	66.7	55.8	全体・3観点とも都の平均を上回っているものの、問題別に見てみると、純粋な計算問題や直観で解ける問題は正答率が高いが、式が表している量や意味を問う問題、文章やグラフから読み解く問題、異なる操作を繰り返す複雑な問題は正答率20%以下であったことから、基礎を基盤としながら、粘り強く文章を読み解く問題や問題解決型の課題も指導していく。
	江戸川区	29.5	60.1	61.3	52.4	
	東京都	29.9	59.7	63.6	54.5	

理科	区分	教科の内容(評価の観点別)			理科全体	分析・考察及びそれをふまえた指導の重点
		思考・表現	技能	知識・理解		
	本校	43.2	54.0	42.0	45.2	3観点とも都・区の平均を下回った。実験に関わる科学的思考はできており、個々の知識はあるもののそれらに関連付けて理解したり複合して応用する力が弱い。「技能」は濃度計算やフックの法則の理解ができていないため。分野別で見ると岩石・地層等の地学分野が特に低かった。色々な知識を関連付けて理解させるとともに地学分野の復習にも力を入れていく。
	江戸川区	43.2	59.9	46.2	48.6	
	東京都	43.5	60.1	47.3	49.5	

英語	区分	教科の内容(評価の観点別)			英語全体	分析・考察及びそれをふまえた指導の重点
		表現の能力	理解の能力	知識・理解		
	本校	39.2	56.5	53.0	51.3	全体として都・区の平均を下回ってしまった。問題別では、リスニングは概ね良好で、ポスター等の単語・短文から内容を読み取ることはできているが、長文の読解は苦手である。会話でよく使われるWH疑問文の語順の理解や全文英作文は特に正答率が低かった。書いて表現する力をつけさせるため、英語の構造を理解し、正しく英語を書くための指導に力を入れたい。
	江戸川区	42.8	59.9	56.8	54.8	
	東京都	40.8	61.9	59.0	57.5	